

野々市中央公園親水池のCOD改善

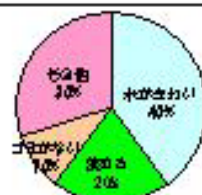
問題点：利用者の親しめない状態となっている

問題点

- ①コケ・藻の繁殖
- ②悪臭
- ③水質の汚れ



最低限満たして欲しいこと



池の現状

現状では「水質」の悪化「藻」「コケ」が大量発生しており、この問題を解決しない限り公園利用者の親しめる池を作り出すことが出来ないと考えられる。

改善策：活性炭での処理

活性炭

活性炭は微生物を活性化させる効果がある。微生物は水の汚れの原因である有機物を分解する効果を持っているためこれらを使用を提案する。しかし「酸素」がないと微生物は分解できないので、エアレーションとシュロガヤツリ(水草)が必要となる。



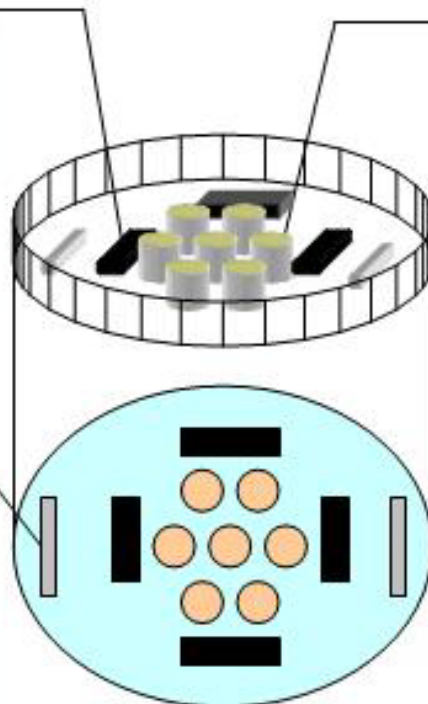
シュロガヤツリ

シュロガヤツリとは水草の一種で栄養分として「リン」と「窒素」を吸収する。そのために池でのコケなどの以上繁殖を抑制できる。その他に「酸素」の供給をする。しかし、夜間は光合成を行えないために酸素を池へ供給できない。



エアレーション

エアレーションとは水槽によく用いられる酸素供給機のことです。これを24時間使用することで池の中の酸素を絶えず供給することができ、特に水草が酸素を供給することの出来ない夜間に力を発揮する。



配置図

CODとは？

CODとは化学的酸素供給量のことで、この値が高いほど水質が悪いということ

結論

活性炭の使用によって公園利用者が安らげて、親しみの持てる親水池を提供すると共に管理者にも負担になりにくい池を提供する。

金沢工業大学
100-8202 工学部3号館

〒763-0292 野々市中央公園親水池のCOD改善

※

担当番号: 10711

チーム番号: 1

チーム名: T1000-1

メンバー名: 南波響希, 佐藤祥, 藤田全樹

代表者名: 山崎潤生

担当教員名: 土佐伸司